

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19



和漢船用集卷第十

目錄

船處名

銅鐵之具



467
卷 9

和漢船用集卷第十

金澤兼光編集

船處名之部

舳艤 トモ 船の前後を總名也。字彙李斐曰舳。船後持。舵處艤 カナラ 桅處艤。船頭刺。櫂處也。楊氏方言曰船後曰舳。制水者也。說文曰舳。舟尾也。艤。船頭也。漢書曰武帝自潁陽浮江而下。舳艤千里。注曰舳。後施舵處艤。前刺櫂處也。古文後集注。舳是船前安棹處。同諺解。舳ハとも艤ハヘと注せり。京師伊豆氏舳ハとも艤ハヘと注せり。

合類節用。曰舳艤。和漢所用。前後相反。並宜照考。船

ニスヘアリ和漢どもに従のゆきあり

和名聚云蒹名苑泛船前頭謂之舳漢語抄曰舟
頭制水處也和語曰閔

頭制水處也 和語曰閔

同船後頭謂之艤。楊氏曰：舟後刺櫂處也。和語度毛吳都賦劉良注曰：楊雄方言曰：舳，船前也；艤，船後也。又郭景純江賦曰：舳、艤相屬萬里連檣。注說文曰：舳，舟尾艤也。張銑曰：舳，船傍艤也；船尾也。先

西漢書

大ふと倍タメも登毛アマモにしかれシカレとあふらめ
日ヒ
大船オハヤの舳ツバメも強クダもよる浪ヨロシのも残リハ無ナシマム
触サキ先トモ舳ツバメと半ハと方カタ繁ハラシ集スル和ハ抄シ又文タメ遼リョウ劉リウ良ヨウ張ヂヤウ

放豆ハナチとあり是とぞ総ツナと総ツナと後モツトモシヤウを總ツナとモヘー又
舳艤トモヘともあひてと後ヨミ表ヨミ今舟クルとかへく艤ツナともへー又
うけりおからくよも者ヨリはとアスアスえりうり
夫本ハラこれ舟クルの世トモと御マサニあアふおきてれ波ハタケあらねうり
力カイ 力カの字ダクイン濁音船ウラのあ狼ワキれぬソウメウ也アハレ方ムコ至ムコよ武庫ムコ
の浦ウラさきたむ小アハレ舟ウラと背ツカイよアラドヨメりき
小舟ウラと後ヨメる宵ヨメの字ダクインそうへと拂ツウランりせそ通ツウランをすり背ツカイ
の字ダクイン舟ウラは祝キク詔サダよ舟ウラ育カタよ背ハドの幅ソウゲンと場シヤウ減ロ
權カイと扱アツカのれえ今せうひといへハ緒ケツクをあアざる有モコあ
一右邊皆せういといへ今も小國ホクコク西國サイコクよハせうひと

ヲモカチトリカキ
左 拠右舵 拠のと用具の如キアリ、ナリ合意
用集軍書等小面櫛取櫛舟の左右比
名トニ又櫛櫛のウモジアリカムとあつゆ多ん
勅勅撰集清浦船のあよシワアリ舟のそりもと
後モハ云れ妙藻也まハラウラカリあかからずとアズマリ

れども、
かくの處
は、水の
おもうち
と、木の
あらわし
を、

底どろくへすり會典曰海運用遼洋船裏河用淺船是
海事所取の利黒あらこと和漢曰毎舟ハ尖底の舟

八平居也

トウカワラ
航行 船底也 艤ハ胴也 ち體ヨナリ 補とも云今別ニ
海系とテナリヨム川系と浦ヨムハ那也 東園ヨモ
ハア系とも云アヨム西國ヨム川系ともウヨムヨモ
國界也 浦ヨムハアリキアリのふうかヨムヨモハアリ
ヨビキタ ヒサ
ム子 ワゴ
ハアリヒタクアリモ奈也經ヨアヨアリウチ株アリ

うるあるのうとむかは、獨うう触ううの二つうち
すと明律考 龍骨ミニリツカク
龍骨リウコツと後せりハ口唬ヨハ舷底用
龍骨リウコツとアヘテ
か邦カタマリとも船法觸ボウツクの本ホンを修改
ときたりらと云又辰辰或ハ龍骨リウコツと云志
鹿カモシカと龍骨リウコツともべー 航カモツカの字カモツカ來見字書カモツカ
字也カモツカ也カモツカ同カモツカと統利カモツカよカモツカもアリ舟元カモツカよちカモツカも
可カナリ舟カモツカと作カモツカやえもえよ後カモツカく放カモツカセ也又船カモツカと作カモツカ
者カモツカハ大カモツカよ非カモツカうて文字カモツカを義カモツカ也

小直
櫨航之經也表航とも云航の本と云ふ事の
如也川舟もて表く浦と云

トモノノツキ
袖之邊
腰も絶えず身ハ水也あ後お及ばざるとある
アイハシ
二

又之より触航と云川舟と云触の浦と云

カハラ

側航

居貫
イヌキ

クギモツアスルハヤ

मानस राजा विष्णु विष्णु

航の港又楠底又
アミの舟所也

トタテ

ま触の板と云上の幅と肩と云か浦中柾の材
と根立立と云中柾の角りと切上と云俗にうん

ミラレ

或ハ辰ノトモリハ龍頭矣——又蘆州より
蘇翁と

以今觀之用子培板之書每割所言之字彙示
卷之水中乃通道之不以爲也、又以一之矣

「きあらり艤也艤也艤也艤也艤也艤也艤也
前燈餘緒ヨ曰夏月於船首裸浴又眉公雜字船稍
とわとへまると後せりハ歌也モノと刻ム

水押小名 前口 組毛 游歩 或繫出
計モキ 又劃先 除ハラキ 激切又派切

頬巣あくのまよは唯此俗ただこのぞくよ

頬骨筋筋膜

是海事の事水押也川舟ハ武松水押ノドゴミ
ト相込テ云よよく松と掉毛と云是小舟より大船

まゝあすの刻也
川浦産船ハ第送り也
伊勢船の第送りより始る
ハジル

故に海舟を送りよさうと有吾妻と移り
弟夫の小舟、又及_レ 舢先のを板也 箱先

扇子の上に放の毛を夾蓋ワタビナウと云ふ。案綱シヤンノウと云ふ。小蓋和蓋ワタハサカと云ふ。此の二種は、毛を用ひて作る。毛の長短の度合によつて、扇子の大きさを定める。毛の長い者を大扇子、毛の短い者を小扇子と云ふ。

女籠よりくわを長引ひて、とての手にさしむる。左肩組

先ようこうちゆく身の餓也今若母さうりみきと奴水押と
カリ
ニフ子

卷之三

トカイ
テニトウイサバ
ルイ
ミナ

ハヤフ子
さすがに、おまかせだ。おまかせだ。

タスハシヒツトウモアラサキモト強き季今のはよ一枝承
フラン

のへさる繩うそ緒すきを名ハリヒテ一の浦河といア
支本

清風はもとよりを浦舟のふるさと也あらねやハ
元はけのあ別也元と浦之云浦又心事の心や

表之洞見と表
小直之洞見と直
袖之洞見と袖
小直之洞見と直

ナカタナ
才世 每例か浦の上よりあり根世上世の中世すり丸ニ階

木
竹
三
脚
造
て
留
修
う
早
舟
法
子
加
浦

中世よりはいわゆる也

ラホヅキ
大絶 中世表ヨモ絶毛と大絶ト云大絶ヨモてハ
二端三端ヨモトナリ表ヨモハ又端ナリヨモ

ウハタナ 上の船側也和名數聚ヨ曰野王按又柂ハ大船の旁
板也字又作牌和名不奈吉那万葉集敷坐

船
船也字又作棹 和名 不奈左那万乘集敷左毛
耶とキニヨハシ曰舟船オツツクシム船をナクニナリ
又車蒙抄より云々トハラララヘのニマハルカタシム
船といアリ 日本紀神代卷曰事代主神 舞船^{フシテフナハタヲ}_{サル}船而避浪
ニ船船此云浮那能倍又万乘よきと云高と後り八重山
舟舟のをナリシトモウノヘトハ先別フミムニマクニ
云々座ナリ萬事紀曰船船オツツクシムと漢せりヘヨク

をさかり承りてあるよりハ雲拂ゆ承りてある
柂カタマリのとおり古事紀曰不乾船腹と云へり及父韓
鼓柂カタマリ又船舷也舷の字注よ船邊と云へり邊側
也柁艤舷橫根拽垂スル回又柁淮南子注よ船弦板と
又人ヒトアリ凡たる事例シテ人ヒトきあくあくよ櫓の字を有
之ハナダヒ也櫓ヤマリハねと並北核帆カタマリ下シテ櫓多ハシメ也
中核上核ミツカタマリ上核アツカタマリ下核シタカタマリ子チコ
以ヨフゆへ字義シギよかシカシテ有ハサウキカシテ之シテ之シテ故ハシメ又
候カタマリ多ハシメ食教シキジ鄭用蒙忌彙カタマリ之シテ繫牀カタマリと
ハ逃ハシメり武俠志カタマリ船カタマリ上シテ繫牀カタマリとアラヘアリハシメと云ハシメこと
別カタマリ也

万葉 あとはあゆの船とすをば取たまつてさとめ

肩 カタ 船のよに幅とく腹の肩と肩とすと或ハ肩の
肩とすと外の名とすとね故よ肩と石

教と移り算法と肩廻シモツモー

足 アシ

舟の底サシタとねと移り入あーとく漢カンと吃水と
云小福船吃水七八尺用浪船吃水三四尺といア
そのあーと後せり万葉注よ臺蒙タモよ曰舟のえ
らと足とくよかよくー大うり舟とハ足シタと云そ
り足とくよかよく藤タケよあーとれ一足足シタと云
舟といへ

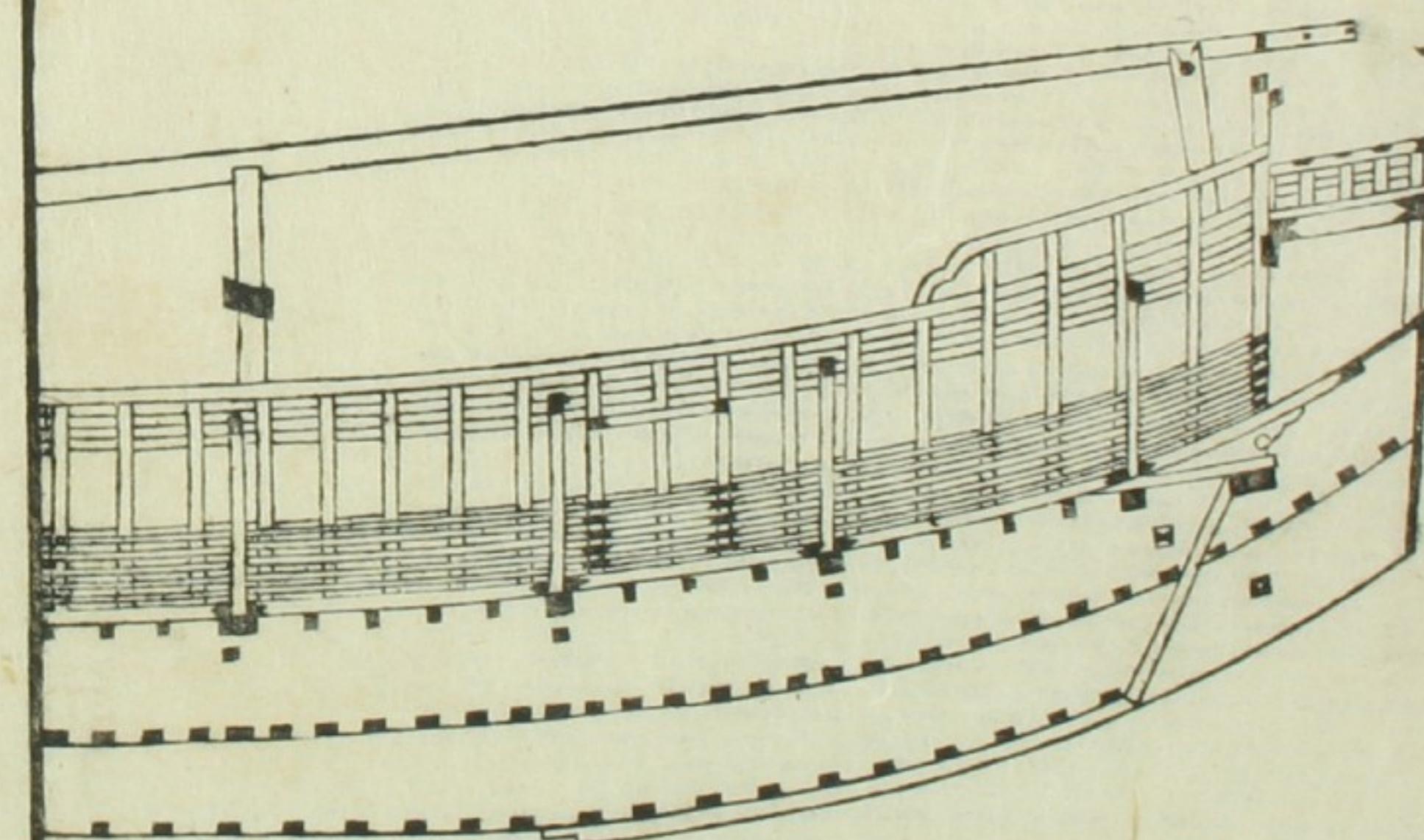
舟の載

舟 フチ 每梁同か鋪ー中柵ー皆の名とすて、上柵よ
船張 フチ 云と移本と云川舟よハ一通トモ也鋪ー表ー小ー

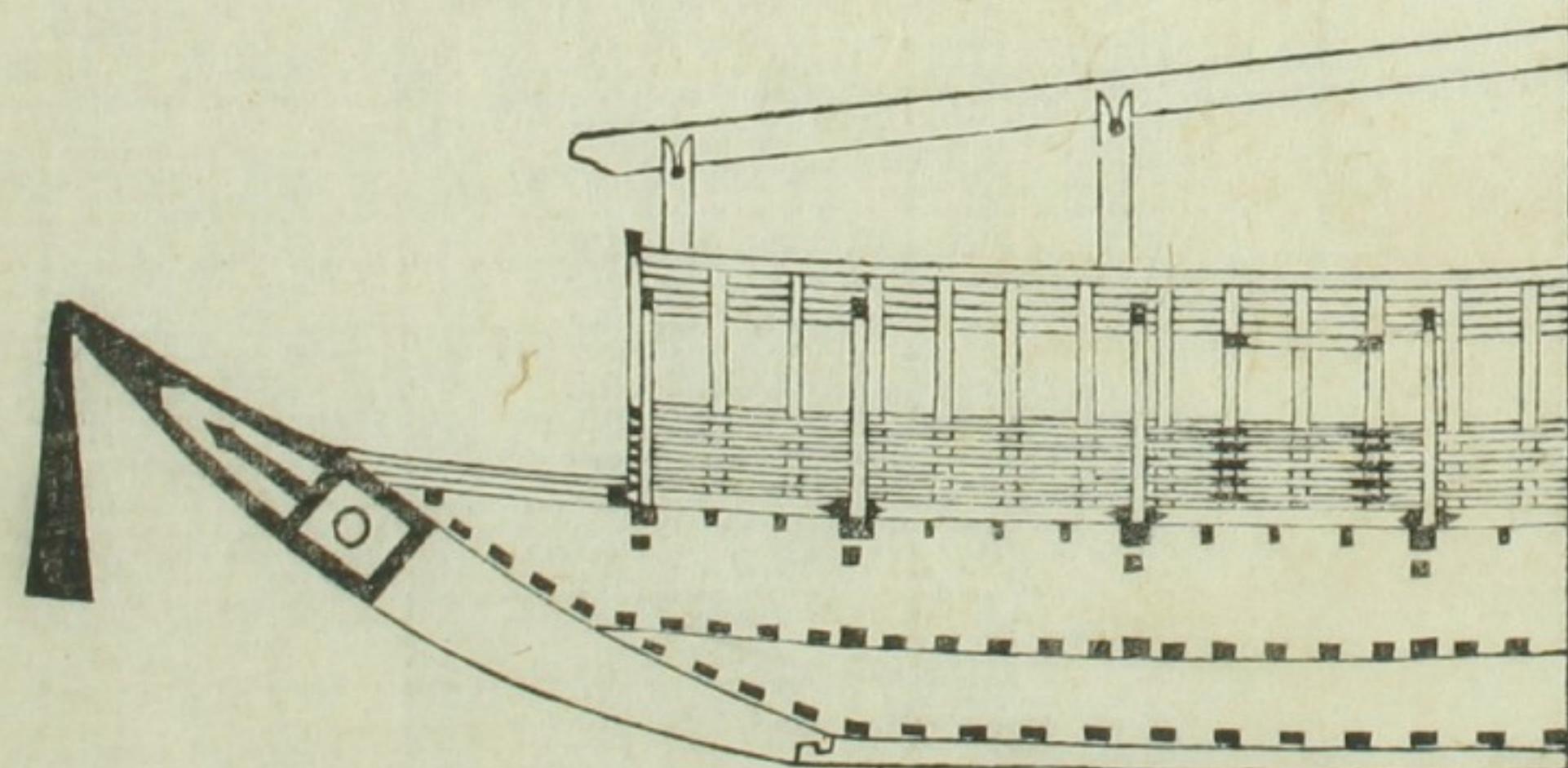
舳ー踏ー張ー鋪ーも也鋪ハシナフチ、每梁おとすり者とくと
と云舟の字用へきう舟方カタよ因筒カイシマ用冰つき小舟梁
うちはけいとぞーすむじ乗本マジキの舟張
とこくらみゆぬききのアんでもうち強ヒロを十二トト舟
梁カイシマとアノヘアリ万葉よ古名張フナハリとテアシ安注よ曰
古名張ハ舟の内よとすあふ後アフタ木本也ホウ木本
そかへと活ハラす故よ舟張のわくと云そといへこれ

百分之一

關船五十五



立挺六圖



川舟の小舟はよみをまねり海舟又ハヨヌ者て巧ム
テラト榜舟と云フヨ有てうれづ様本とよ舟と云
万 あすくわゆのよみをす麻の葉味をとぎくらか
流鼓舟梁 リウユーフナハリ ケアドフナハリ
船鼓と舟梁のアリヨミニ中身を舟梁也筋引よ輪す又
斗 とくあり引ゆのきく世を張内を極テ又ハけ事
梁のよよ極と云く半岸を架一船と船側の
木へ立木

檻洞船張 ハシトウチナハリ 檻洞舟梁也村菴御よ白雲翁に瓊渓湾と
櫻洞船張 仙わづ瓊島還切音彌水曲也洞ハ往弄切同

去声空也アハワ通音かれども湾ハ挂高也左今
ハサモタシク艦の字と用蒲官切音盤水廻旋也
又鷦と向浙米汁也け舟梁ホ袖曲空の如く有て
木と術の如くもハいつとも仰よクアヘー
貫本 ハシスキ 今櫻と争ハ那く櫻ハホ蓑生毛ト云クア
一番一一二番一一三云てあり

中貫 ナカスキ 横床と舟梁との中費
列中費 列中費と舟梁也

合掌中費 カレヤシナカスキ 上よ日合掌舟梁ひり
家屋の合掌と云ふ事

櫓床 ロトコ 上の舟梁をさととも榜と架に曳の名めり

を安地筋用雜字大全至不釋書よ出づり櫛森回
酒あよアヘテリ宿アホのをとおてゆきり

切櫛床 キリロトコ 又かみ絃あり川爭切弦と云ハ切舟弦の中墨
おり切丁と申附ハアフクふりつゝと後明律

考車手まくちやうと訓

正力 カサ 遣越櫛床を越舟累の櫛也云目の本と以て化櫛
カサナ 又雇と申雇櫛床也所雇と云うなり万葉

樹櫛床 カケロトコ 又雇と申雇櫛床也所雇と云うなり万葉
八十梶多とよやうろとうけうを

小間 コニ 艤一巻の弓其本と浪宣との
ナミセキ 間をも舟舟とて又尺と云

綱摺 ツナスリ 回回の柵うみせ也何縄をとりやり摺取れ様
と又又 ツナスリ 縄縄とも云藤轡もよ被ふハ藤ふく
マあくとひア

夫本

漕ゆうとまうれ舟の壁みハ船よううう交きこゆすり

え捕船

緘面 カメノカウ 明律考かめのこもと別にけぬ龜甲の形又板と
張及龜の甲と云又若舟そかんもんと呼中舟

緘標の窓うり又櫻船よくさんと呼高ハ日名異也
武家感状地又曰後附云うみてよ云れの民に無

と云者あやむるに後多く國をよ仕へぬ申附呂宋

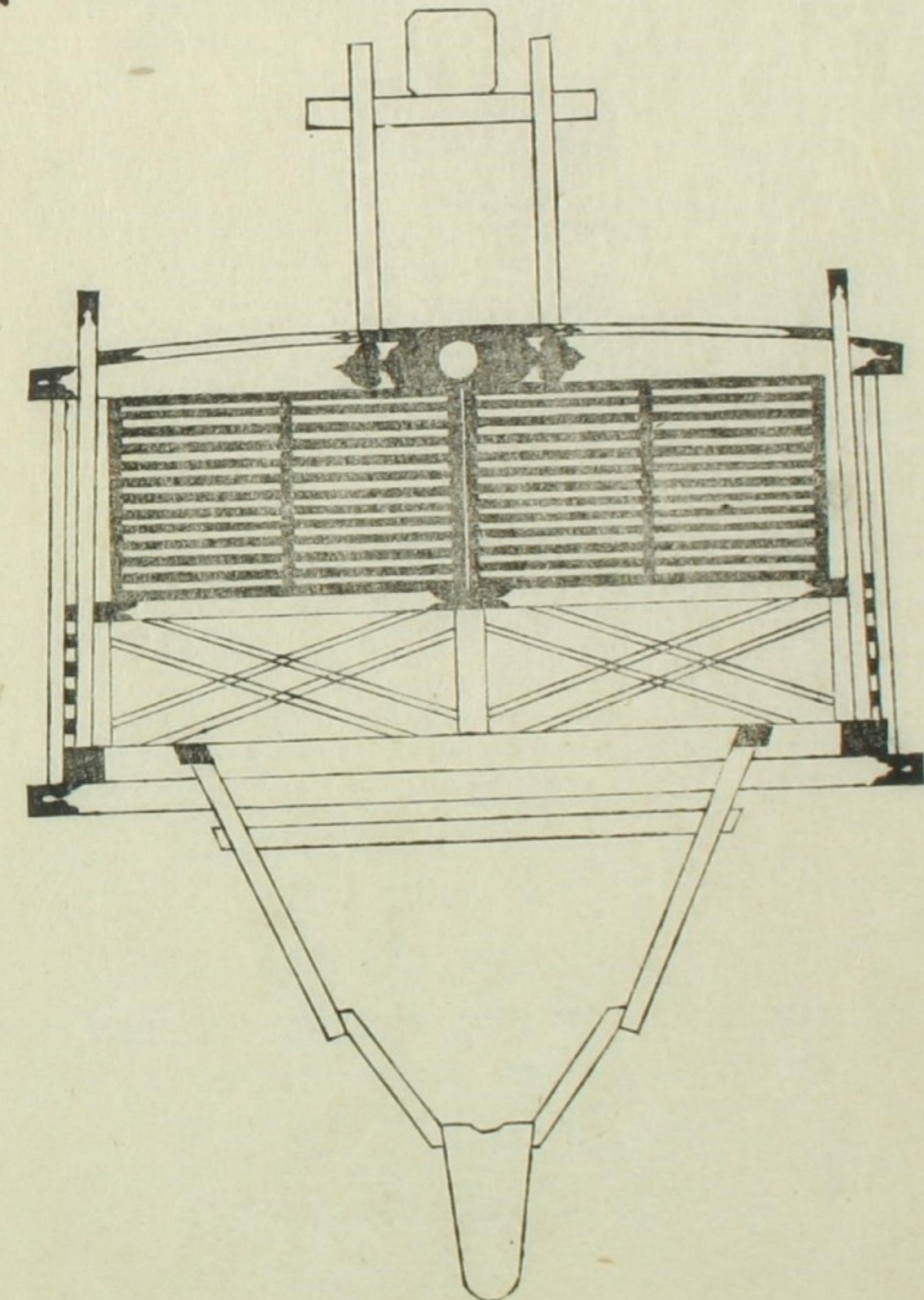
舟ハクンチんとまく 室ます年の角木と引換ふ
ヨリ船舷^{クニ}_{フナバタ}よ一面^{レキワタ}よやめ渡^{テキ}一 故モ^{リヤウツ}身^シよ素^ス船^{ボウ}ハ
えんちんとひたひづとあわく^{カク}うけゆとゆく^{カク}をあめ
そえんちんの換^{カウレ}ふよ船^{クニ}くうらまく^{ホコ}矛^{マサ}とんでりけきぬ
よ先^{ハツ}と衝^{カク}とアズヘアリ有^リ事^ハクンチんとまくあけ^{トアタ}意^イ究^ミ
以^テまく云^ク或^ハ因^ムとあきく放^ハう^クをとまくとくいア
とまくとまくとまくとまく

子ユフキ 猫の鋪也
眉ニ難字ニモナリ猫ハ鋪也可のカキ也和漢以
前ノ音会ナガフセリ 郡小向ミタマトヲ高ねコムキ
セテアクトイアリ有ル毋ニシムクセヌ天の弓ミトヨ
ヒサヌ天トヨヌ

カラカイ 宅未考或ハ唐家居ニ申植一卷の水と云立を
カラカイ
トモカイ立と云は 簿ハ皆ね立と云
タカノハ 廉義廉の立よあり官室トモく墓膜トモよ同し
鷹羽
タハサイ ヨケ キウニツ
カイルニヌ
モ名次災を除ん久アめり立よスモく廢の羽
ユク トク ラウハ ラホラ
トモカクハ引と後して浪波ヨ弱さうんとと欲
ナツク
ミカサ

三十分之一

同艤浪闌文圖



ゆとも云あふわれうとゆ入と云或ハ梵天ス水ト
クミムヒ松ふく云とりふハ意狀也開伽楠開伽摩也
佛具よりて滌とハ表別也

舸

舸ハ舸也舟方小深サモニシム幅ト肩シムヨト

ハカタ

イフ

舸の間ニノ舸ニノ舸ニ底櫓本弓ニ遵生八牘又曰
輕舟下中倉四柱續頂慢^{スブチヤウシラモソヌホウタニ}以蓬簾後倉以藍布作

一長慢^{キシシナラ}

ニアマテテアマテテ中倉どうのまゝ狭ぢり

腰當

ヨシアテ 橋底の急也又箇室と云川舟とて舸橐

腰當

トハ縦あとももす體スカタリ

小底形

トヤカタ 下底板と云のあげ帆船^{木タナ}トて下底弓^{トヤカタ}

所列底形と云

ナトヨヤカタ トヤカタ トヤカタ トヤカタ トヤカタ トヤカタ トヤカタ トヤカタ

之ものとろと綴せり

牛頭 ムツノカニラ ふ世の利より又一號有舟よあわくハけ如二本
立とらまく、立ちあふよ佛神を安置し船底の表
如がく船の底と云ひて

水繩下 ミナフリ ふ字中暗して

水繩下 水繩の下にあり

碇上 ケアゲ 家家の離放ケハナ 一と云は因船云

より以下間の名又接床の名なり

床 トコ 柄床ミリツカウ く明律考下合とと列に又答と事和名
教義云舟答秋名曰舟中床所以席坐曰答言
但有筆貢如答床也和名布索度古毛と以てこれ

ハ本と曰承みとも答とハキズ接と架に及櫓
床とキハ和漢ともに曰栓と架に有られハ柄床と
キ也本肥松と羽小名形木板

丸に栓の平木と納れ或ハ櫻洞と云候よ

丸に丸も又雲又替と云は緋の遠キ

大栓 タイゼン 栓和名稱よ曰本行也床

又ハ參よモ川舟ハ接もあり

子持 コモノ 又合とも字とも云綾の字ともくくくくくくくく
カリと云へ一と云の合と云ふ者と云す
略々縛の字と曰べ一と云は因船底孔思接舟言
かくへき 本邦合とも有フ一と字とも云ひや

完璧アハツ
とちるふを根ホツと紗サめ風フウとハタケ一財シテよ百里ヒツ
ひりゆあわせタツトムへきギ海カシマ舟ボウハ模ヨウ本ボンよ用川ヨウケン舟ボウハ
綿タテギ本モチキ用ヨウ本肥キコエねと身シ小名コニ這座ササ
又作
持座クシ
メクラスヘ 明津考マツコやくもクモと剝ハグにすおのせうセウあア又ス育ヒツ杖ツクツク
梶猪カシマ こまつとも強タケルとといひて川カワ舟ボウハ引ハグ船ボウとす
切張カツリよう又ア肩ヨコよよせセそとすス舟ボウとすスらせラセふとす
せうりうけあうり

眉ニ雜字私隻門ニ挽行^{ミツハシ}トシハシカム肩のと
肩^ツ
ナリヘテ又截の字近^{ミツ}ヨ回^{タスカル}捍^ヲ船^ボ也^{タスカルヲ}愚案^{ウジ}挽行^{ミツハシ}ハ帆
船^ボのたてと係^ル裁^ルハ船^ボとたもくら本^{ハシ}字^{ミツ}戈^ギ春^スヨアシム
本^{ハシ}邦^{クニ}肩^ツと称^シモラの利^{メシ}也^タ舟^ボの中^{クニ}央^{ミツ}ヨナリ^テ神^{ミツ}と安^キ

に肩男の神乃所名よよねり肩、幻舟とく足利宗
氏公西園よりよその刻銘世宗の絵像と自画舟毎の
事象もあきせ経と云ふアリ舟とハ肩之舟云神ハ猿田彦大神小
さくおりまきと放肩ハ櫛うそゆりち法也志クリハ神よ
ハ肩よゆうの大本み一近代是よりゆりふねと用く
逢木ともすハ神よと云次もすもすと又曰逢あよ
ハムととハ別よとすもく又船ハ佐若大神宇後一後
入御舟よ安置にねを以て櫛よ用ひと放半身

卷之十

卷之三

指天

天帽子のふよあり天と云ふとモモニヨミテ
ハシラ リヤウツメ
呼アハラリトモニマクノ ゆよ胸と云て
カ
檣と架毛す又川舟掉キリの先天也云天を危
ドウ ヲキ
ヨブ ウミフ子カハフ子
アマ
としてびくと峰海舟の舟もよひく先といア

モジタモト

筒校ツムガサ
帽子指天モコシテスカヒ又ク争アゲル者
ゑく考エクシマ解子モチコモナエ
ゑく考舟エクシマボウ又司モトシ也

あく病承は司り也

卷之三

矣余叔也通叔功叔行

水
芝

ふとあり立とも

卷之三

ムノカシラタツ
牛頭立 触あゆみの角り立

卷之三

アユミ
歩
挾とも云ニ名一ね也海爭うそ皆アラム川争ふ
挾とも又争の役ハ別ヨリ是用之のセキナリモテ變未

とあてたるもともうも後不可也明律考陸耳とおもふ
と後せり表があり触おうすすよよよとおと
のよを挾とそへ一帆船は宵と中挾と云候

繫と云ふ者ありて一宇注承の樓也れ本と云ふより
かハ敷木の字とも云ふ事もあると云ふ

物見モノミ

挾歩の間と云ひ如きを云ふ事へねり」と
「挾歩と云撃也取の傍近比まと撃と云

怪傳アリレヒヌカ

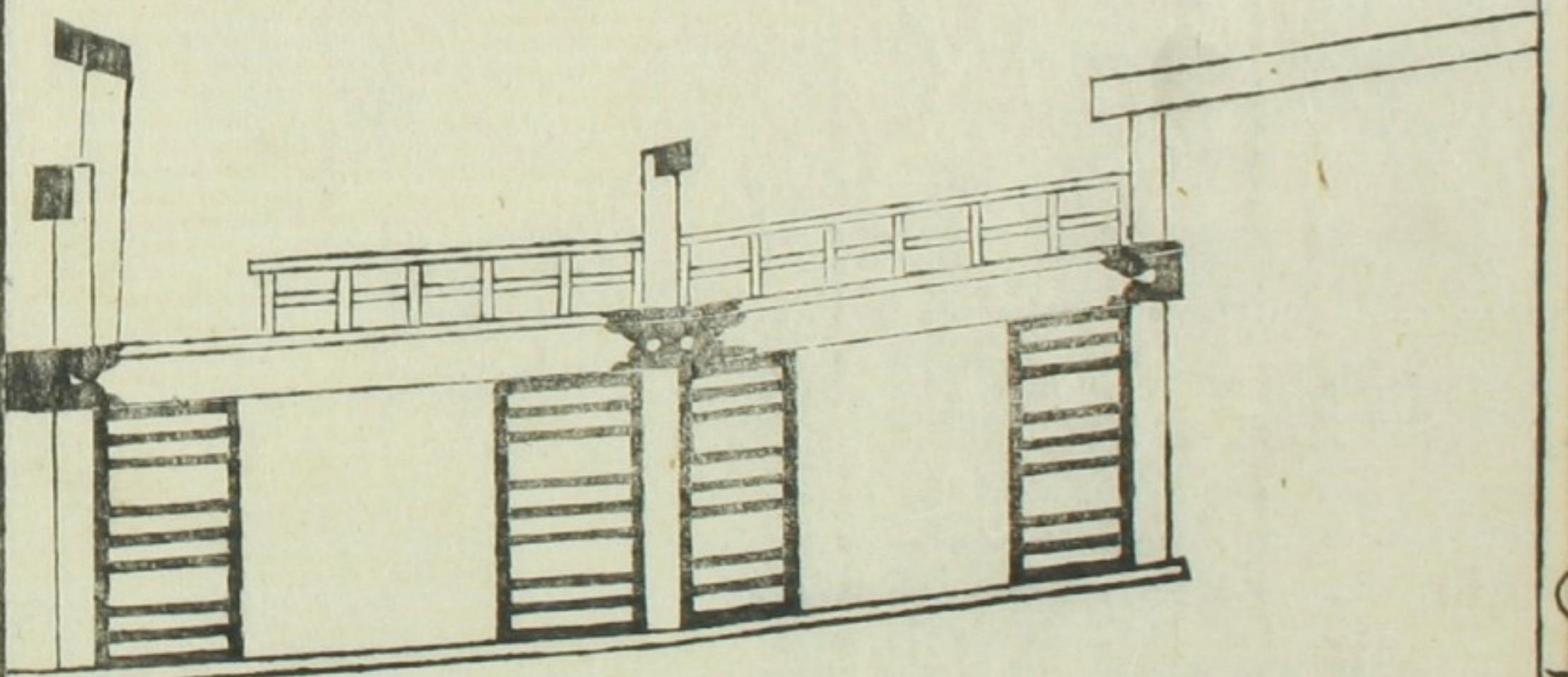
呉書曰宴飲於船樓上尤大船ハおやうえ
表樓 舢樓アラタツ也余余とも半小船ハ舳樓アラタツ
也武高支ムセヤバシ支樓アラタツハ樓船アラタツ也明律考
尾樓又拜棚頂アラタツハ多モ屋アラタツ之檣樓アラタツ也又
失庫アラタツ事アラタツ有事大船アラタツハ孫床アラタツあり小

シヤウキ
将九
乃基と申ハ號^ヒニは所也大君の居所を^{アリ}故也
のんと名存ル又れともキ表慶院の名あり

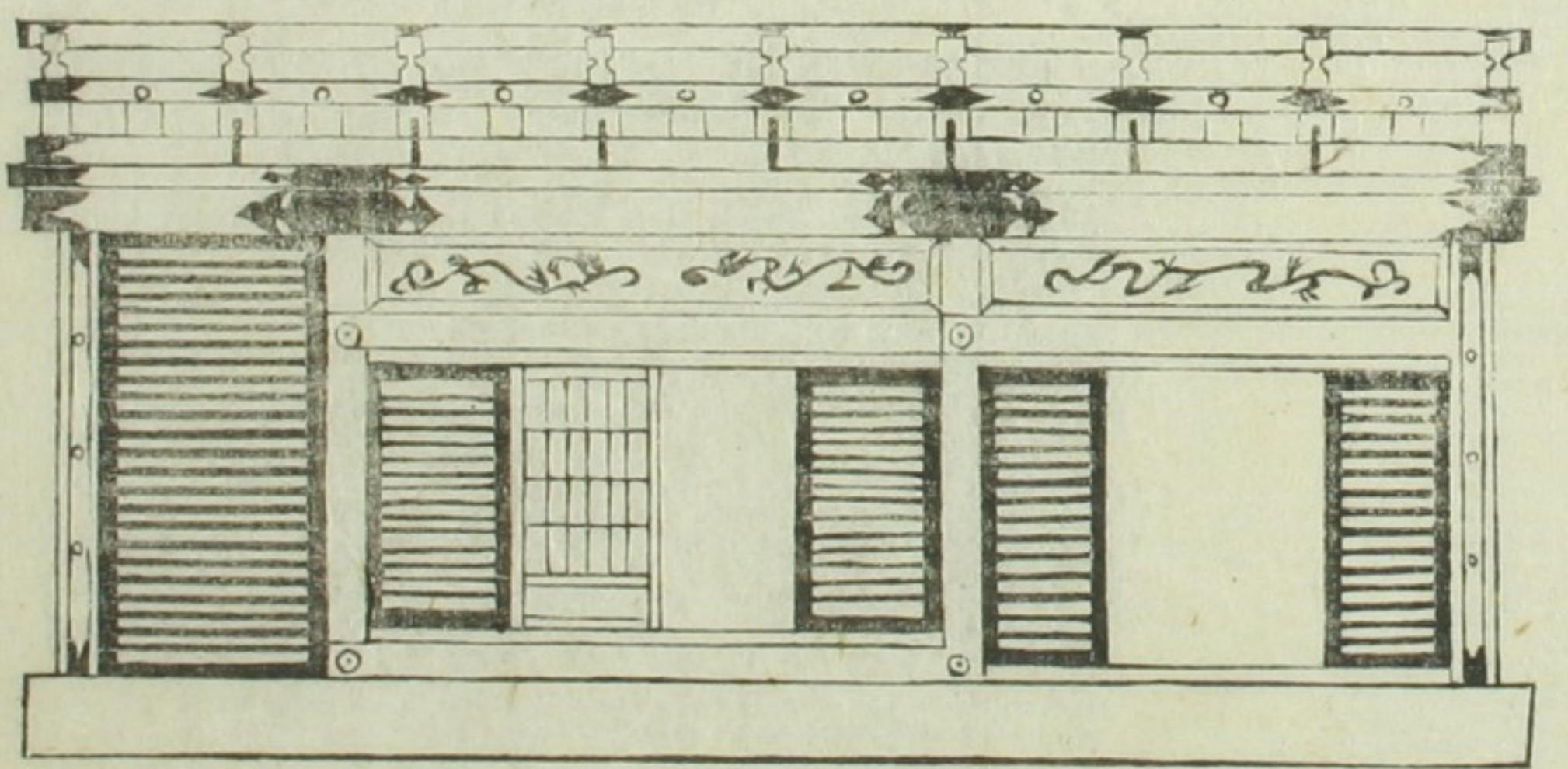
楊氏方云よ曰今は東呻^{トシ}船頭屋謂之飛^{ヒリヨト}向^{カミ}こうへ下ろ^ト
盧^{ヤカタ}、^ト亾形同^{トシ}名^{トシ}云舟上屋謂之盧^{トト}言^{トト}象^{カタナ}盧舍^{トト}也^{トト}
彙曰舟上の屋を盧と云重屋と飛盧と云又其^{トト}
上^{トト}云在^{トト}雀室^{トト}と云言ハ中候望^{トト}と雀之敬鷺祝^{トト}
家^{トト}わ^{トト}次^{トト}ニ^{トト}五^{トト}層樓^{トト}か邦^{トト}ニ^{トト}の有^{トト}
盧^{トト}ハ下^{トト}亾形^{トト}亦^{トト}盧^{トト}ハ上^{トト}亾形^{トト}雀室^{トト}ハ日^{トト}霞^{トト}屋^{トト}也^{トト}
上^{トト}云次^{トト}三^{トト}株^{トト}作^{トト}り^{トト}事^{トト}とい^{トト}ハ今^{トト}川^{トト}水^{トト}のね^{トト}
並^{トト}云ふ^{トト}亾^{トト}こと^{トト}後^{トト}せり^{トト}勢^{トト}之^{トト}去^{トト}依^{トト}紀^{トト}ヨモ^{トト}ニ^{トト}や
く^{トト}と^{トト}ア^{トト}亾^{トト}形^{トト}の小^{トト}多^{トト}去^{トト}多^{トト}行^{トト}也^{トト}船^{トト}屋^{トト}船^{トト}廳^{トト}
根^{トト}を^{トト}は枝^{トト}耳^{トト}枝^{トト}も^{トト}様^{トト}浦^{トト}居^{トト}鴨^{トト}居^{トト}中^{トト}浦^{トト}居^{トト}壽^{トト}浦^{トト}居^{トト}

五十分之一

同舟曲帆棚



艤廬文圖



方立去押組て井庵違れ刀弟遡返徳陵子
ハウタテナゲシクミテシジヤウトコチカヒタナカタナバコケヨニフスルレヤウジ
トイラドヤリド

川舟庄船ハ豫前庄船トコトアリ外ヨアリエヌト
株接蓋貢裏側第株破風品板屋板外更齊前屋
破風作ひテノ破風向遠屋林ホヨリ昔ハ海内庄船モ
は割き川舟庄取方の多ナル上弦次之回船樓也庄
取の左右多蓋の柱と立屋林と分る是と號屋林ニ
云應ニテトモ云表水杆ヘ歩りとかし屋林ト云ヒ
下より舟庄と小泊ルミム私共の居处也舡外余のあ
かにとづる送りと云舡のむし舟林とよより余を
鼓矣余と云フ

トーヤカタ
蓬丘

爾雅曰舟上屋也和名布素夜加ち和名妙管以下
よあらんとまやうとともべー丸管ハ船の用具よ

新後漢

カキスエ ヤカタ
昇る風歌 源平益襄也よえくすり

袖屋船之檣と立帆とをもろ一そく表帆船行
小名船模の柵中挿立耳板する櫨中巻居

帆船のたとえよし取てくま
帆の縫合の縄のさうる取あ

舟下 每の窓也 艤は一後海あるあり

船 月入船窓と致しと作より

臺

帆の立たように立たの巻也 檠床のとよ並者

間の名をすくは船一陰方一表一舳一反一

檍間臺 舷立の迎り

左立より

腰臺

立の腰巻也 狹巻よもや射ハ近板ヨリ筋は

筋

筋列船法ニ添ひリ一つハ前津流と云一つカ場

筋と云是捺列を波口に付八事うちの筋ニ通す

筋と用

鋪臺

及巻より

臺

及巻より

社板

及巻の下より

大立

華表立とも云多々立

立

とも本舳の大立より

笠本

華表立の笠本又模上とも云

明律考 檍檍よときと別立ハ是

角立

立舳の角立まぬの角立より

大立

大立の立太より

中立

中立と大立より

矢切立 ヤキリタツ 舵の端かへて底标立也

又送り立アシテリタス

風切立 カサキリタツ 表一轡の
底立カキタツ 底立カキタツ

底立 カキタツ 余の底立よ立せしる底守底立カキタツ 有本核
底丸底等行り武備志女橋ミヅハ と行カクハ承例の之
又立高橋タカハシ の起立タマツリ 云体沾酒ミズハ 席ハ女橋也ミヅハ
坂上カマツチ 底立カキタツ ひめうにと後アフタ今嫁ミツタニ の自源
の役カミ 天工用物アツコヨウモノ は曰後國海船兩傷列アツコヨウモノ 檜手カミ 檜
板擦水カミホ 人在其中運アツコ 檜板カミ かきカクと後アフタ
雨覆アマラホヒ 底立カキタツ の雨覆アマラホヒ たり太触カミ まぬ廻アラタマ

又行縁スレ 又走縁スレ 又走縁スレ といひ

筋スジ 每法筋スジ ハ筋骨スジガ といひ

貫ヌキ 底立カキタツ の貫也 上貫下費地費

押サレイタ 底立カキタツ の押又アマタマ と云アマタマ

捺板サテカキ 弘方捺板カミカキ と云アマタマ

袖垣シヤタツ 袖の左シヤタツ 底立カキタツ と云アマタマ 川拂カミハシ を取アマタマ ハ板カミ と云アマタマ 剥アマタマ 刻アマタマ 章アマタマ ひり

車立シヤタツ 大船カミ ハ四シヤ ねよ行アマタマ 船車立カミ 案アマタマ 一シヤ 尾板カミ 船

車立シヤタツ 車立シヤタツ 中アマタマ 船以下アマタマ ハ後アフタ 一シヤ あ

ロクロザ
絞車座カチキタツ 色と難うて大船は用舳艤ヨモウ 中
絞車座 船以下ハ舳の方キ後車を用表ハ車知と

用小船ハ前櫓牛也

柁卷立カチキタツ 又柁挾カチキタツ とも又あるよ

來よ付り柁挾カチキタツ とも云

柁造テツクリ

帆既失食之下ハ押入ね也小名立庄の板柵

又造セイツアタ

浦居脇長刀架シマツイタ あり川又舳の板ともへと作

回板カムキ

又名板と事附ハ又字中略して後傍板と呼ハ

也

船く大立中立角立の回板也

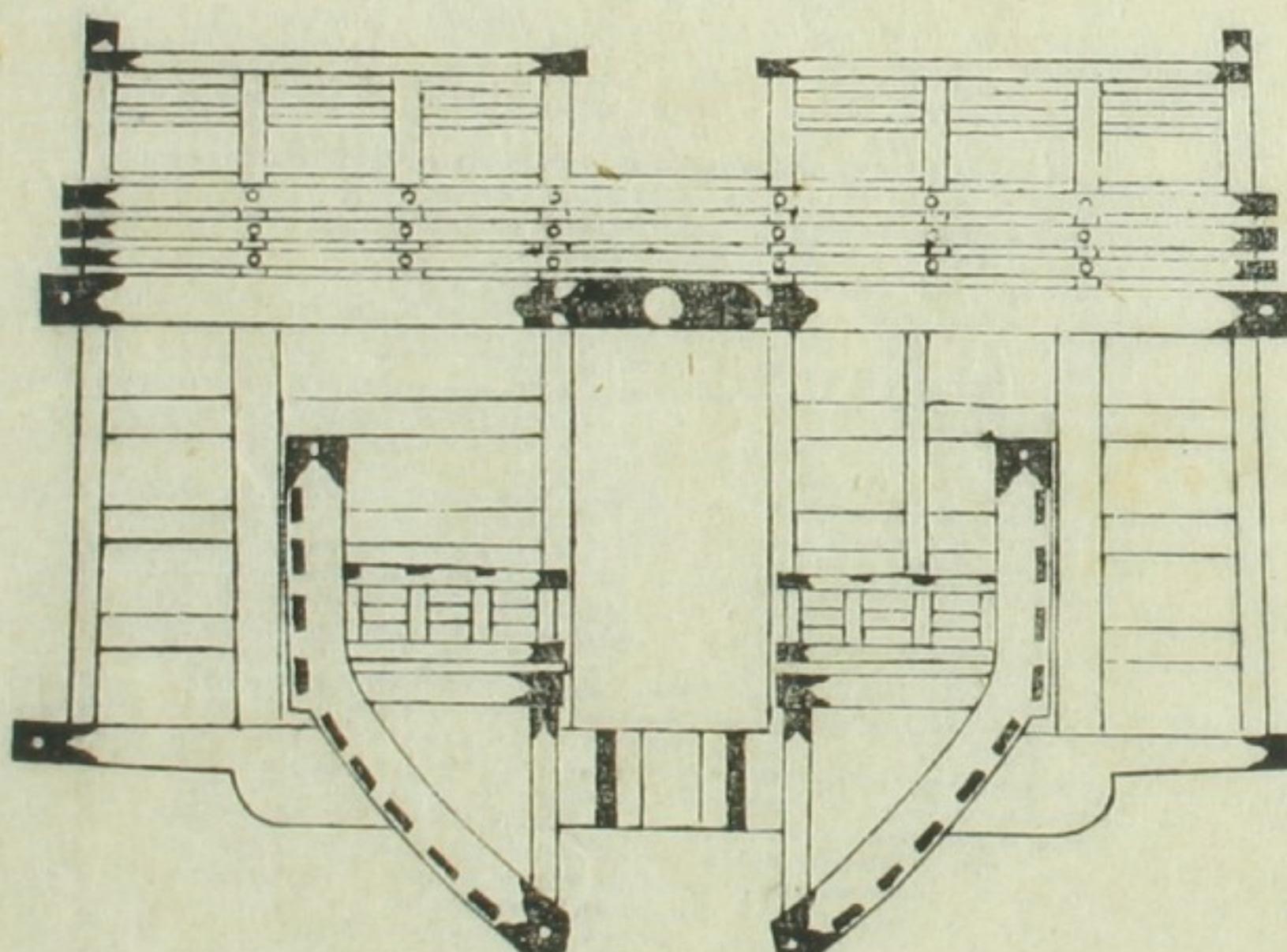
まぬカムキ

ま舳の恐名を云本のことま向廻カムキタツ とうく

笠本の上小名まぬを面覆前母を指板

同 艸 真 向 之 圖

五十分之一



外舳 シトトモ 外艤回又空艤と名小名鉤本又船底とも名舟床
より下底を板母て強を縫法強と云中底を特

鼻張ヒメガタ

底板 シタナ 斧板とも云下女板とキハ逃ヒミツ

船底板 ヨクシタナ 船舳の下通ヨコスルと軸て底板とも

畫底板 ヨキアラリ 船舳の下通ヨコスルと軸て底板とも
一一と云ハ外舳のあうとも

知利 チリ まとの傳風毛と知利とも

船尾の柵板毛と知利とも

倚柵 ヨリカゲリ 右は多うりくらと多く上柵の舳の方
多くよき倚みのとくねよ倚柵とも

投入 フタテ 滯立祭也中國云々ア根本と底川と表れ投入
と云ふと此の如前と遠り

踏立 タタキ 守立也中國云々ア根本と底川と表れ投入
守立 守立也

另カイ張 古木の茎の茎のたゞすれと板多く強也又
大取タケタチ 多くハラと押さめ穴をひけく板と強く

筋舟 カタクチ 筋板と底川と云く機もんとも

用に明律考水船門と云のまれ門と別に表のうの

にかう或ハ通にと車軸轔左左よけり若舟そ表
の左れに停る込と停ると引込船也轔のとよ蓋臺
と云若竹はれを金の轔立とをとカンコ挽と今
もまたよねを度すヘーろくとせうのとまくと
者ハ停る又ハ小舟とカンコとモーとアベテラ因
州船山の也と云如は小舟とカンコ舟と云舟今も
四處の方々々々へ停る行ひハ小漁舟とカンコ
とひア

みくさひ ツク繩搜柵ツクニロ 舟の錦カサリ
八雲所柵よ田ふくさひ舟ふくさひのす

蘆垣あよ云滿舟よきうねたりと行り又ハ車に云
スくと云と云ハキアリと云と行りと云と
蘆垣つと同一愚按ハクシム行権とキモト
大舟小舟よトツアリ舟よ船と候附是のノ候行道
キモトツ行とあらじとて前とモトセ是船のヲ
クシムねどもハ是を云う又云くと云ハ水を編と申
ヘ一是今ヨリモヒと云く船のウツアリと云源よ
け也とのコト下れひと接の通あされハ深ミ一お
とモトツアリと云くと云も水を編と編フタモトナリ
船固は岸のよやも小船の波よけとモトセ是
具の船よもんハモ蘆垣の役つそハモトモと

あうとども今以れふあうと
シユ

四五

あくさひのとよテ押縁又玉縁と
大里タチ小口ス登り口ス

除社

廻船後海アマガシ有アリ方カタの
小くさひ也又アリけり

刹社

有アリ上社ウエハシのとよ刹タツ有アリ
をすアリ小船ボウとよ

刹切

刹切シホキリ又水押ミズタマ控コントロ

惣引

うそきシラフことシラフ上社ウエハシの表ヒラフ後アフタ

馬廻立

川カワ上社ウエハシの終エンドのれ因ヨリ又アリねネをアリ
馬カバ廻立タタキ船水ボウス神ミツの附タタキまマこコノノ枝ハシの

茆板

名ナミりアリ小コトハ蘇スル海シマ有アリよシ
茆立シトニイタへシトニ又アリ度スルモアリる

茆縁

表ヒラフのアリもアリ茆立シトニイタ小コトハ後海アマガシ方カタ
アヌアヌと相縁シラフとシラフ

撓立

小立コトハへコトハ或ハシ立コトハ立コトハハハ舟ボウの
方カタ也アリ經本キボウ小立コトハ底トトロトトトロ

底トトロ底トトロよりヨリ小名地コトハ度スル丸辨マルビン
中コトハ株立コトハ小立コトハをアリ捕ハシ也アリ

欄干

小名地コトハ度スル立コトハ也アリ

蕨

蕨人拳手サワラビと蕨の形サワラビを作り放サワラビは名符

持送

かー底シタ詠シタより明律考抱掬モチラブすと別に
是向シタ多々又小と小猿シマウマ猫ネコなどハモニの名

出失シタ外シタ船ボウのあー底シタ詠シタ也シタ船字大全又明律考より
底シタ詠シタと底シタ詠シタと後シタ又牛探ウツバと云ハモニ内
らんえんと別に川舟シマウマハかー底シタ船福シタより小名

樞シマウマ輪根シマウマを浦板シマウマ耳板シマウマる櫛多也シマウマの參輪シマウマ舟
是シタ接參シマウマと云ハモニ立シタと夫シタ立シタと遠立シタ又接立シタと云ハモニに
底シタ詠シタと船ボウ接シマウマ又シタ勢接シマウマと云ハモニを勢シマウマと夫所也シマウマ唐

船ボウと云ハモニ蓋シマウマ藻シマウマ嘗シマウマと云ハモニ舟神シマウマとある也シマウマ板シマウマなり

日覆

大船シマウマハ夫余シタのよシタり小船シマウマハ垣立シタの因シタよ付シタく立

と云ハモニ也シタ多々也シタ小名立シマウマ櫛梁シマウマと云ハモニ有シタ也シタき
船ボウ又方シマウマ有シタ也シタ元シタ行シタ有シタ也シタ宋シマウマ九舞シマウマ又圓シマウマ納シマウマ而方シマウマ鑿シマウマ
兮吾固知鉏鋸シマウマ難入揚升庵シマウマ日方納圓鑿シマウマ則
不相入シタと云ハモニ是シタお夜シタせシタと云ハモニ有シタれと云ハモニ
方納圓鑿シマウマ小入シタ圓シマウマ方納鑿シマウマ又シタ入シタやシタと云ハモニ有シタ也シタ
乞板シマウマ有シタ也シタ迎シタ居シタ船ボウとシタて船ボウの元方シマウマよシタとシタハ金シマウマすとシタ也シタ
大底板シマウマ日船シマウマ也シタ乞板シマウマとシタ

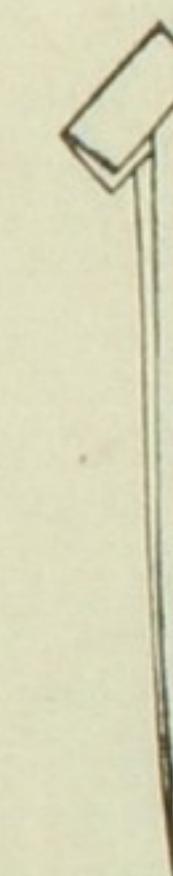
波

波シマウマ中船シマウマ上船シマウマ下通シタ也シタ行シタりとシタ泥濘シマウマとシタ也シタ

銅鐵金具之部

女夫釘 メラトキ 艤とからむの釘大船小船又より水押絶

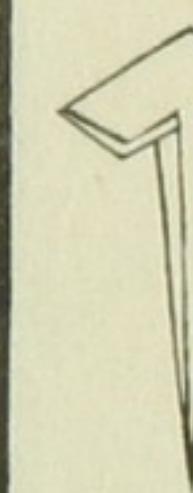
止釘 ミナシキ 行法西二本より一寸放支錐行と云



四ツ釘 ヨツキ 舷とかくらひの釘也大船小船又より水押絶
止釘にあよかまつねよ四ツ釘とも



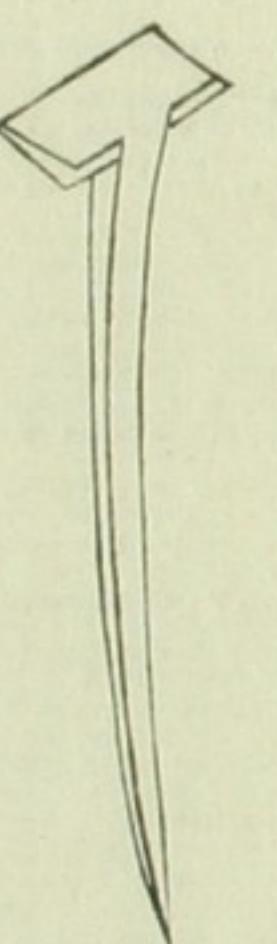
纏手釘 ツキテキ 小底舳航又中柵大縄等の釘川舟より
浦かくの縄毛行也又よりらと行とも



カレラ

頭釘 カレラ 船梁行加浦行中柵行上柵行柵行也加柵

中柵上柵ハ水押付とて木是とのなり行
又例舟又小底行と云ハ止さ小底行



縫釘 ヌイ 又おとくと云彦行と申
來て今きもと縫合行也

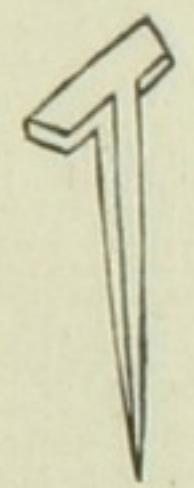


皆折釘 カイフリ あくよ用川舟と申とお行と紙材と云ふ申

すと以よは皆わとハつわのえうとし

小皆打 コカイタリ 敷の筋打と云大敷小敷と似けよと呼す
ふふニスドスと云すがんと云ふ

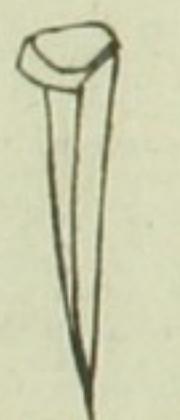
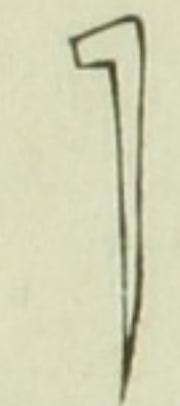
平打 ヒラ 惟道祇場櫛船等の役打也
毛と平と名大中小のふあり



矢余打 ヤクラ 矢余板をお打也皆打とひくは是包打
と曰あると家底より打と廻りふ毛と用
次一連大一連二連三連五連六連と云者就有打と



皆打とひく云凡連と云若大一連一把打の數十
又其餘ハ打の名又ニと掛て一把の打の數と似し
色針 ツミ 包板を打大色小色と云てあり毛も又大
敷小敷と云所類と云者つまく四方打也

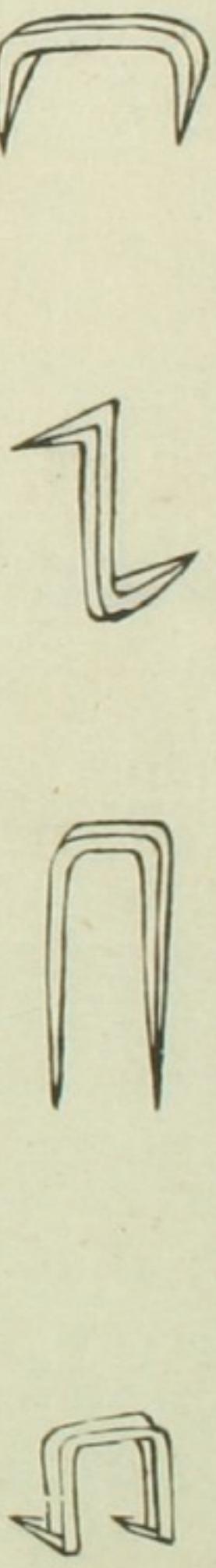


大底打 ヲホリコ 色打の大たうと用
大底板とおの名也

淡底打 アホリ 色打と用あゆう板
とおの名也

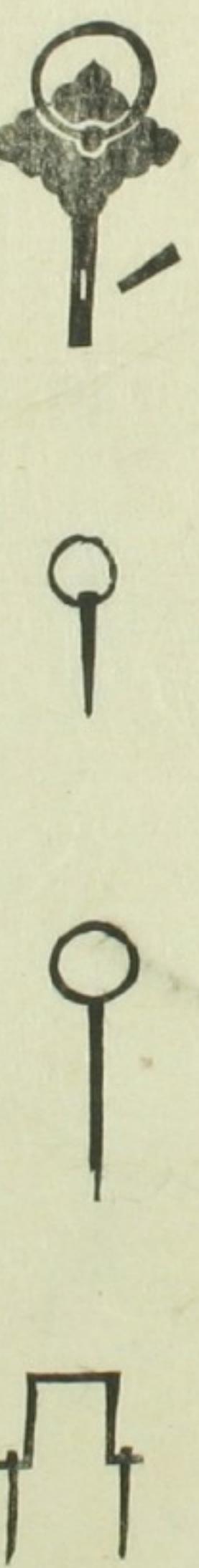
錄 カスカヰ 和字也今專通一用下學集鉸と申合敷節
用ふ縫うキ延喜式和名抄よ云

良安曰錨大行形如丁字而耑尖釘二本繫回者也とアヘトアリに角アヘテア爪アヒテ孫アヒテヨリ遠縁アヒテ幅度アヒテ厚薄アヒテ平縁アヒテ又猫縁アヒテ又掛ロ床アヒテ又ヨリ校若材アヒテ用



鑷

合類筋用鑷同輪鑷アリテ掛鑷アリテ有孔を櫓孔アヒテ早縁環也モ用ヒルムシニ傍シク名トシ大小アヒテ大環又大近アヒテ帆足アヒテ細アヒテ通ヒ高水繩取ア方根取折込環等アヒテ舟アヒテ触繩繫環大環アヒテ床アヒテ又縁環下立等アヒテ今鉤ト

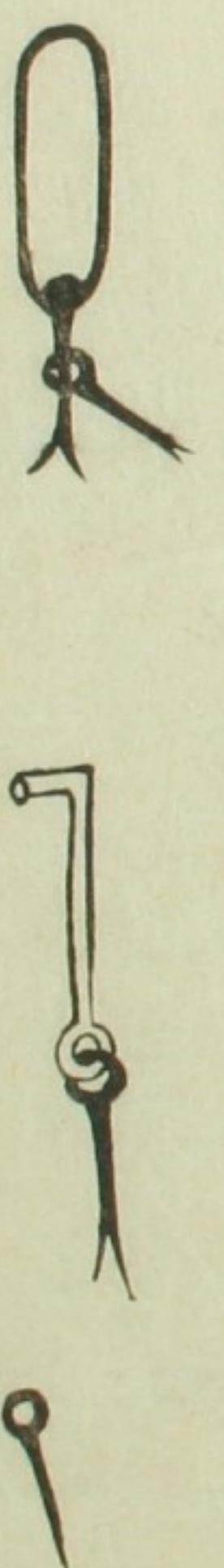


鉤匙

合類筋用鉤匙同輪鉤アリテ掛鉤アリテ有孔を

肘鑷アヒテ今アヒテ掛全アヒテ通用ルアヒテ利ス

鑷のうけつアヒテ今片アヒテ或ハ蓋アヒテ半者大尔
兼也アヒテ刻根のアヒテ



肘鉤

肘アヒテ二ワセアリヌアヒテ也アヒテ落スアヒテ者又

毛筆又司りをむくに酒と云突上又司りを毛
の嘴と云或ハ齧の嘴ともいへり

丁

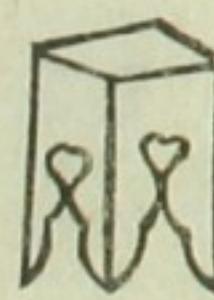
丁

化粧金 ケワイカ子 水押の飾全物スイヒヤウノシキゼンモツ 漆切角全物シキチカクゼンモツ 带全物ヒタゼンモツ
達脇中箭タツナカミヅケ を方丈より名のうづくと
川舟よハ達輪タツルン 化粧全也墨ハ名殺又處名の景又
足へり廻船カモシ 髮カモシ のよかふせりと甲羽カモヒ と云
平金物 ヒラカナモノ 蒙鹿カモク ふ模モダ 上底取の意輪イリヌ やう帆船ハフセン と
船ボウ あるをかハ双入ハ双ありと司シテ 有アリ よ名
と呼也毛輪或ハ減全毛形鹿カモク まと割カツ は又ハ七五歩

あり又表裏め素綱縫スイワツ と陰カモ 行ハシ り



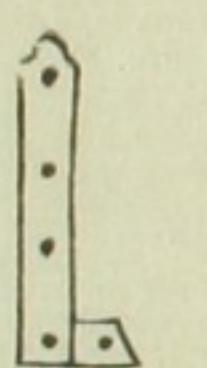
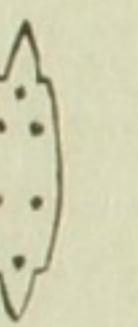
頭巾ツキン 里派の令ねく鼻アシ とま接スル 鼻アシ 着スル 加
頭巾ツキン 金物 利風切立角立箭アシ 着スル ホ也



帷金物

達タマ 金物

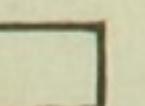
以上ニツハ言櫛探干



入頭

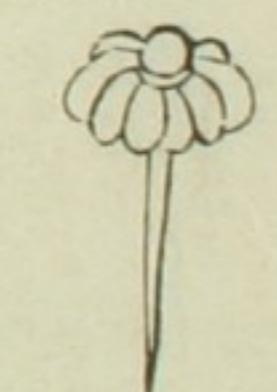
行ハシ のひと源す令ねく上歎カタマリ 利

川舟よハ第アシ かナ立スル 有アリ あり



砲頭丁

蒙古彙云俗云駕打也又砲頭丁と
半今兵とまで通司を和字と



鉗鎚

蒙古彙云俗云頭高太打也
和名云乃之加打乃久岐漢語故云頭高太打也

紫國彙云俗打俗云くソルウニテシ云鐵甲

ナリ又 捕首俗云鐵甲と云ノドアリ又打ノドアリ

外触鉗

ソトモツリ力子
和名ハ鉗子也

本と用治本と云

床卷鉗

トコニキ力子
和名ハ鉗子也

枕床の丸に付左右斜ノ

和漢船用集卷第十終

